

事業概要

別紙

事業名：

田辺出戸線（長吉出戸）整備事業

所在地：

平野区喜連東1丁目～長吉出戸1丁目

目的：

- ・本路線は、本市東南部の東住吉区と平野区を東西に連絡する補助幹線道路であり、道路ネットワークを補完することにより交通の円滑化を図るものである。
- ・当該区間の沿道においては、府営住宅、市営住宅をはじめ住居系の土地利用がなされているが、地区内の移動は細街路しかなく、歩行者・自動車交通が混在しており、交通安全上の課題を抱えている。
- ・本路線の整備により、歩道を設置し歩車分離を行うことで安全性の向上を図る。

事業内容

道路新設

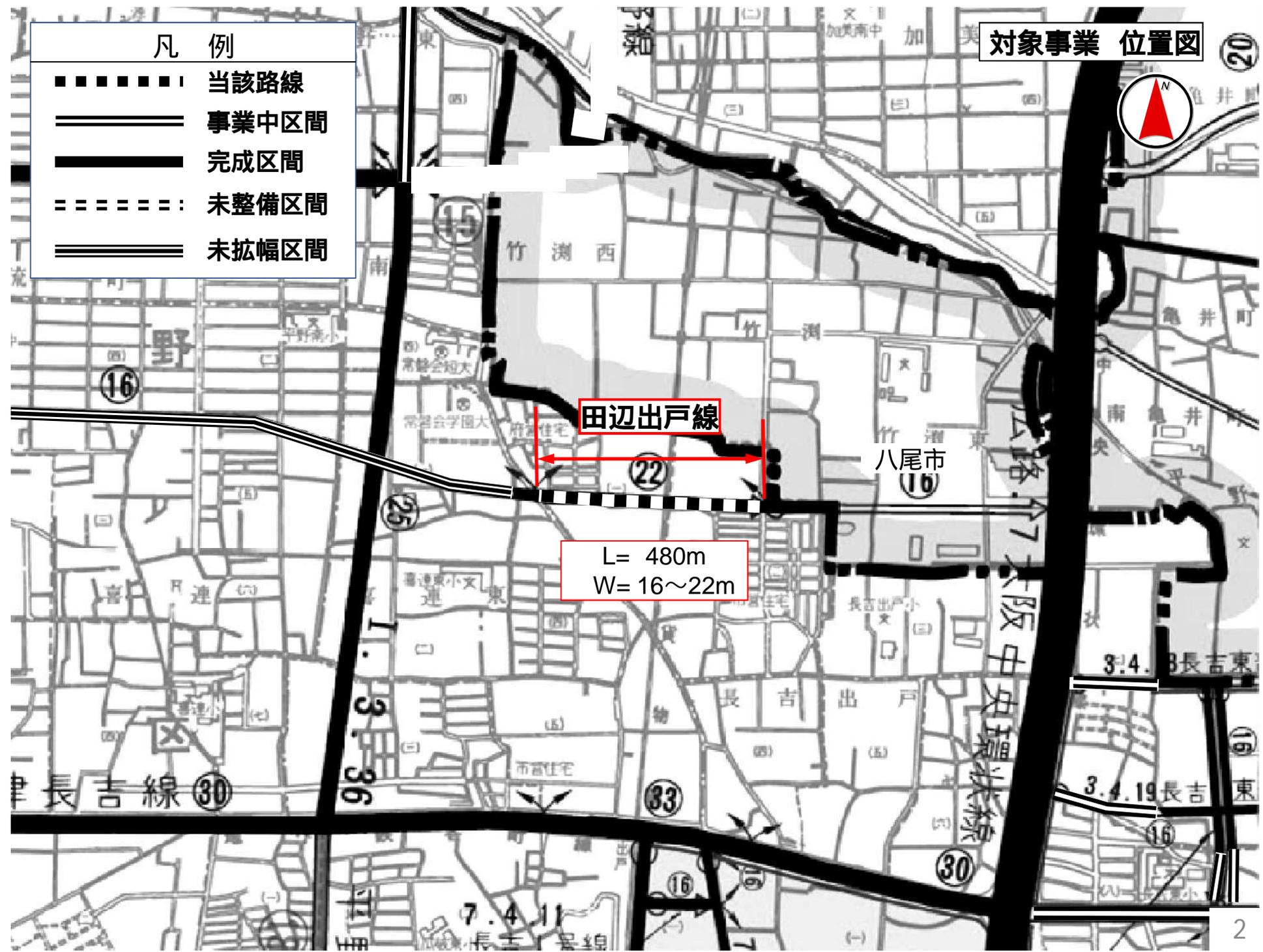
延長 L=480m

幅員 W=22m（片側1車線 歩道あり）

対象事業 位置図



凡 例	
■■■■■■■	当該路線
====	事業中区間
————	完成区間
=====	未整備区間
=====	未拡幅区間



田辺出戸線

L= 480m
W= 16~22m

社会経済情勢等の変化

事業採択時

- 長吉出戸西団地の建替に伴う交通需要の増加への対応として、地域的な道路網の形成と歩道整備による歩行者の安全性確保が必要である。



現在

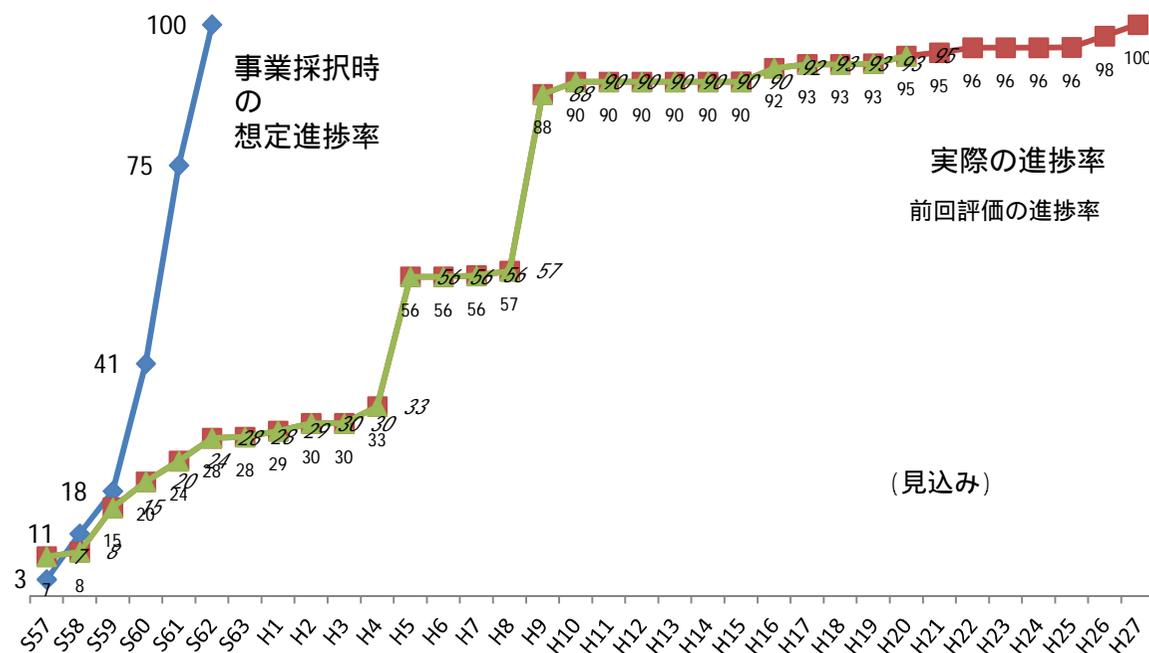
- 沿道において、府営住宅・市営住宅などの住居系の土地利用がなされ、自動車交通量の増加に伴い、道路ネットワークの形成によるアクセス性の向上や歩道整備による歩行者等の安全性の向上が必要である。



- 本路線の整備により、道路ネットワークを補完するとともに、住宅建設等により増加する自動車交通に対して、歩行者等の安全・安心な歩行空間を確保し、交通の円滑化及び安全性の向上が図れるなど必要性が高まっている。
- 本路線は、重点整備路線として重点的に事業を進めることによって道路整備が概成しており、残りわずかな用地取得、整備工事を行うことで事業が完了することから、完了予定年度に向けた予算確保に努め、早期完成を目指す。

事業の進捗状況、今後の進捗の見込み

進捗率の推移（単位：％）



残事業の内容

- ・用地取得 9件（139㎡）
- ・道路工事（面積139㎡）
- ・残事業費 約1.4億円

今後のスケジュール（見込み）

- ・平成26年度 事業完了予定

（見込み）

事業が遅延した原因とその状況

- ・用地取得において、近年の下落傾向にある土地価格での売買に難色を示されていることなどで、用地買収が難航し、事業が長期化していた。
- ・財政状況においても悪化しており、年次計画どおりの予算確保が難しく、当初計画に比べ進捗が遅れていた。

対応と解消の目途及びその根拠

- ・本路線は、これまで重点整備路線として重点的に事業を進めることによって平成21年度に道路として概成していることから、事業効果は概ね発現しており、残りわずかな用地取得、整備工事を行うことで事業が完了する。また、用地取得の目途も立っており、年次計画どおりの予算が確保出来ることで、完了予定年度での完成が見込める。

事業費の見込み

建設局運営方針

【局の目標（何を指すのか）】

安全・安心で快適な市民生活、活力あふれる都市活動を支える
都市空間の実現

【経営課題】

都市基盤施設の整備が不十分な地域の解消や地震に対する備えが必要である。
近畿圏の広域交通ネットワークを強化し、関西の国際競争力強化を図るとともに、都市における円滑な交通の確保、豊かな公共空間を備えた良好な市街地の形成を図る。

【戦略・取組】

密集市街地における道路整備 淀川左岸線 2 期整備
連続立体交差事業（阪急京都線・千里線）
都市計画道路の整備

街路事業の進め方

【重点整備路線・完了期間宣言防災路線】

用地取得率が高く、整備効果が早期に発現できる路線として重点的に整備する。
地震時における重点密集市街地の被害を軽減するため、防災環境軸の核となる路線を重点的に整備する。

【密集市街地関連路線】

密集市街地における防災性向上重点地区のうち、特に優先的な整備が必要な密集市街地（優先地区）内の道路整備を進める。

【他事業関連路線、鉄道・立体交差事業関連路線】

他事業と連携して進めることが事業進捗上有利な箇所や、先送りすることの影響が大きく他事業の進捗に合わせる必要がある路線に重点的に投資する。

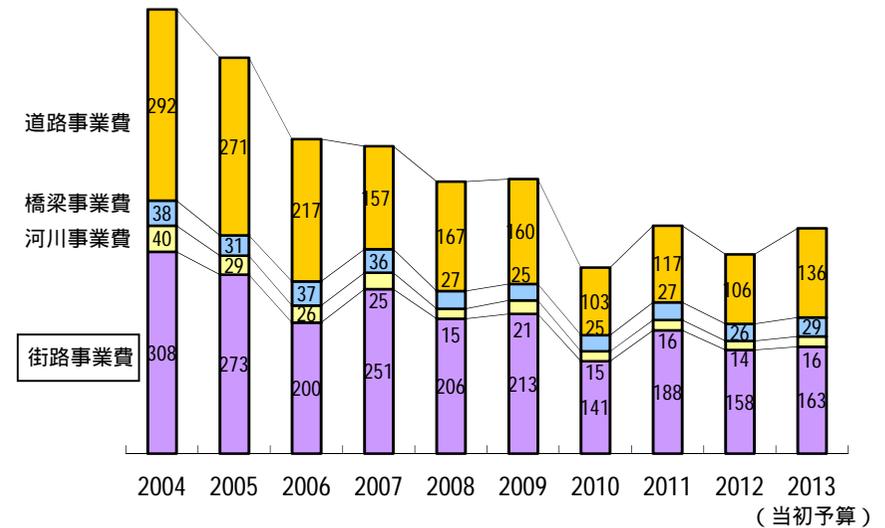
【その他路線】

積極的に買収は行わないが権利者の買取要望には対応。
重点整備路線の収束にあわせ、次の整備候補路線を抽出する。

建設局事業費の推移（単位：億円）

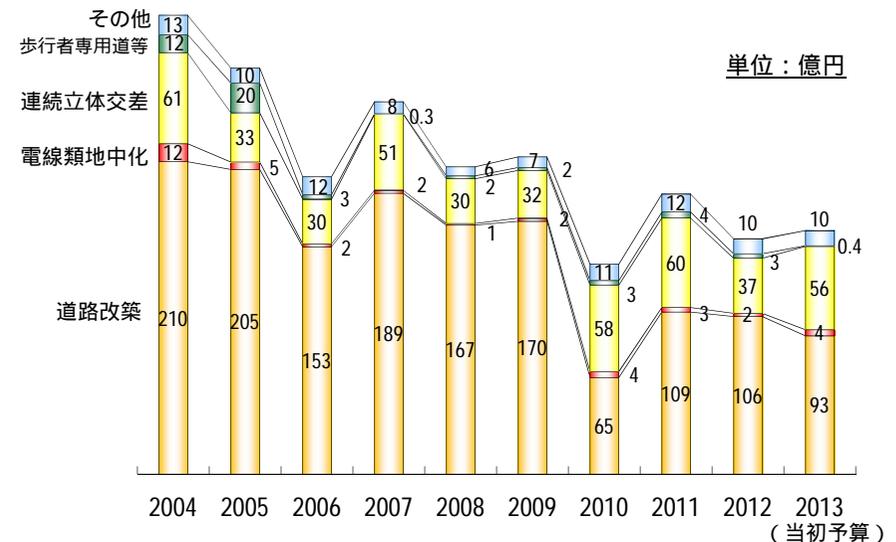
道路、橋梁、河川、街路事業費のみ

単位：億円



街路事業費の推移（単位：億円）

単位：億円



事業が遅れることによる影響

事業が遅延する理由（財政面以外）

- ・土地価格の下落などにより買収交渉が難航すると、残る事業用地の確保ができず、事業が遅延する。

事業が遅延することで発生が想定される課題

（事業者の視点）

（利用者の視点）

- ・歩行空間の確保による歩行者の安全安心の享受や、沿道環境改善による周辺地域への事業効果の享受が遅れる。

（権利者等事業関係者の視点）

- ・都市計画法による建築制限などの私権の制限がかかり続けることとなる。



課題への対応

- ・重点整備路線として重点的に事業を進めることによって平成21年度に道路は概成しており、一定の道路機能は確保している。

- ・完了予定年度に向けた予算を確保しながら整備を進める

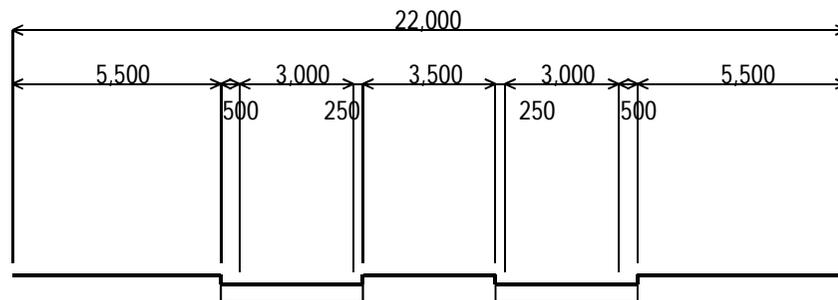
大阪都市計画道路 田辺出戸線

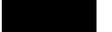


田辺出戸線 事業中箇所 L=480m W=16~22m



田辺出戸線 標準横断面図



凡 例	
	用地取得済箇所
	整備済箇所
	残用地取得物件
	施工中箇所

用地取得率：98%（面積ベース）
 工事進捗率：99%（面積ベース）
 事業費ベース進捗率：96%